

平成16年度入学式 学長式辞

愛媛大学長 小松 正幸

皆さん、入学おめでとうございます。全国各地から、また、外国から、併せて2,005名の若々しい皆さんを愛媛大学の新生生としてお迎えすることができ、大変うれしく思います。愛媛大学を代表して、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

このよき日のために、ご多用にもかかわらずご臨席を賜りました、吉野内愛媛県副知事をはじめ、各方面のご来賓の方々、愛媛大学名誉教授の先生方に厚くお礼申し上げます。

そしてまた、皆さんを今日まで支えてこられたご家族をはじめ、ご関係の方々のお慶びもひとしおのことと拝察いたします。ご列席に感謝申し上げますとともに、心からお祝いを申し上げます。

さて、新生生の皆さんはこれから愛媛大学での生活が始まります。大学生活は、皆さんが責任ある社会人となるために、真の自分を発見し、自分の生き方を見つめ、生きる力を身につける、人生にとってかけがえのない時です。悔いのない学生生活をおくるためには、一日一日の過ごし方が大切です。

皆さんは大学で何を学び、何を身につけようと思っっているのでしょうか。大学生活を始めるに当たり大事なことは、何かを学びたいという意欲、学ぶ意欲をもつことです。しかし、その前に、何のために学ぶのでしょうか。そのことについて私の考えを述べてみたいと思います。

皆さんの中には、今から将来の職業を明確に定めている人、進むべき方向を持っている人もいますが、多くの人は漠然とした志望しかもっていないかも知れません。的確な職業選択のためには、より多くの情報が必要です。慌てて進路を決める必要もないことはもちろんです。しかし、皆さんが大学で学ぶ目的の一つは大学を卒業後、自分にあつた的確な職業を持つことだということを忘れてはなりません。皆さんは次の世代を担う役割を背負っております。そういう大事な役割をもつ人たちが、将来の目標をもたず、職業意識もはっきりと持たないとすれば、大学で学ぶ目的意識もおのずと希薄になり、その挙句、いざ就職という時期になって自分は何をしたらよいかと迷うことになります。

自分に合った職業を探すまでフリーターとして過ごすとか、せっかく職を得ても自分に合わないということから二・三年で辞めてしまう、こういうことが深刻な社会問題になりつつあります。このように若い人々が不安定な、はっきりしない状態におかれるということは、皆さんがた自身にとっても不幸なことであるし、もちろん社会全体にとっても良いことではありません。

社会のどの分野で職業人として貢献するかということは、就職してから意識するものではなくて、完全なものではなくとも大学生のうちにしっかりとその中心的な部分は形

成されている必要があります。職業的な実習訓練が近年大学教育においても重視されている理由がここにあります。愛媛大学では入学した初年度から企業や自治体などで実習を行うインターンシップに力を入れております。受け入れ側の企業や組織のご協力をいただき、本学と共同でインターンシップを実施する体制が出来つつあります。このような場を活用して、初年度から2回生、3回生へと実習を重ねて、社会を担っているスペシャリスト達の仕事ぶりにじかに接して、自分にあった職業を探し、目的意識をしっかりと持って勉強に取り組んでいただきたいと思います。

さて、大学で何を学ぶかということについて二番目に重要なことは、それが単に直接将来に役立つ知識や技能だけではないということです。皆さんがこれからの人生のなかで学ぶべき知識や技能は膨大であり、大学で学ぶことが出来るものはそれに比べればほんのわずかにすぎません。大事なことは知識や技能の量ではなくて、どうやって知識や技能を修得するか、その方法を学ぶことです。知識は勉強によってしか獲得することはできません。技能は勉強と実践によらなければなりません。その修得方法、これをスタディー・スキルと言いますが、このスキルをぜひ修得していただきたいと思います。

このような目的意識とスキルを得て、皆さんはさらに深く学問の世界に入りたいと思います。どの学問分野であっても、そこには人類が長い間の実践と思索から、歴史的に積み上げてきた知識の体系があります。学べば学ぶほど、知の蓄積がいかに奥深く、広大であるかが分かるでしょう。そして、そこに限りない人類の知性の力を知り、生きる勇気と力を与えられるに違いありません。もちろん、まだ解明されていない、乗り越えられていない無数の問題があることも、勉強を深めてゆく過程で理解されることでしょう。既存の知識やノウハウを熱心にこなすばかりでなく、新しいものに挑戦する気概も皆さんに要求されているのです。この力が本当に身に付くには受け身の段階を乗り越えて、自分の考えを自分で組み立てる実践的な学習、創造性の世界へと飛び立つことが必要です。

この過程が大学における「学修」学び修める学修ということです。大学での学修を通して、知の力とともに、新領域を開拓する企画力や自己表現力、情報発信や処理能力、国際的なコミュニケーション能力をぜひ身につけてほしいと思います。この過程で皆さんは、自分の生き方と大学での学びが深く結びついていることに気づくはずですよ。

さて、本学はこの4月から、国立大学法人愛媛大学となりました。法人化によって国が大学の管理に直接かかわる状態から、個々の大学の自主性・自律性が拡大されます。大学がどのような道を行くべきかを、大学人自身が決めることとなります。皆さんは新組織となった愛媛大学が迎える第一期の入学生であります。私たちは新しい大学のもつ自主性・自律性を最大限生かし、新入生の皆さんとともに学生中心の大学を築きあげ、地域に信頼され、世界に貢献する、活力に満ちた愛媛大学を目指して、着実に改革を進め、理想を実現して行きたいと思っております。

これから迎える学生生活は、もちろん愉快的なことばかりではありません。学修上、生活上において皆さんは様々な困難に遭遇することでしょう。本当に困ったときには、大

学教育や学生支援に携わっている教員や職員に、いつでも相談していただきたいと思
います。私たちは皆さんへのアドバイスやサポートを惜しみなく行うつもりであります。

これからの4年間、あるいは6年間、思いきり勉強し、課外活動に取り組み、また、
日本や世界で困難な状況におかれている人々、社会的弱者の方々への手助けをおこなう
社会的な活動などにも、できれば参加してみていただきたい。専門の勉強を熱心に行な
うとともに、学部や大学の壁を越えて沢山の誠実な友人の輪を作ってください。単に個
人的な満足に執着し、自分の殻に閉じこもるのではなく、我が国や世界の人々がともに
幸せな生活を送ることができるように、若い力を遺憾なく発揮していただきたいと思
います。

皆さんのこれからの充実した大学生活を心から願い、式辞といたします。